

マテリアリティとSDGs

マテリアリティ特定プロセス

キャノンでは、下記の3つのステップを経て、マテリアリティの特定を行いました。その結果、ステークホルダーの関心が特に高い「新たな価値創造、社会課題の解決」ならびに「地球環境の保護・保全」をマテリアリティとし、さらに、これら2つのマテリアリティに取り組む上で支えとなるテーマを「人と社会への配慮」として集約し、3つ目のマテリアリティとしました。



ステークホルダーへのアンケート調査

キャノンでは、社内外の動向の変化にあわせて、ステークホルダーが関心をもつ社会課題やキャノンに期待する内容を把握するために、アンケート調査を実施しています。キャノンではこの結果のほか、サステナビリティ専門家や投資家などステークホルダーの意見も参考に、マテリアリティの妥当性の確認や見直しを行うなど、社会に対するキャノンの事業活動のインパクトを分析し、企業活動のより一層の充実を図っています。また、持続可能な開発目標(SDGs)についても、ステークホルダーの意見を収集し、活動の拡充に役立てています。

アンケート調査対象者
対象: 日本・米州・欧州・アジア・その他地域在住の消費者、サプライヤー、投資家・アナリスト、NPO、市民団体、大学・研究機関関係者、官公庁・自治体関係者のステークホルダー100人

3つのマテリアリティとステークホルダーへのアンケート調査の結果

特定したマテリアリティ	アンケート項目(抜粋)
新たな価値創造、社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 人々の健康や病気の予防に貢献する医療技術の開発 社会の安心・安全に資するセキュリティ技術の進化 写真や映像分野における人々の豊かさや楽しさにつながる製品/技術の開発
地球環境の保護・保全	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化の促進/再生可能エネルギーの活用 使用済み製品のリユース・リサイクル 廃棄物の削減/水域・土壌の汚染防止
人と社会への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 差別やハラスメントの防止/基本的人権の尊重 適正な賃金と労働時間の管理
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動を生かした社会貢献活動 次世代の育成支援

マテリアリティを通じたSDGsへの貢献

キャノンはさまざまな事業活動を通じてSDGsの達成に貢献しています。アンケートをもとに把握した各SDGsに対するステークホルダーの期待と、前ページで特定した3つのマテリアリティを踏まえたキャノンの活動との関連度合いを、以下のマトリックスに整理しました。キャノンは社会の期待の変化を的確にとらえながら、自社の技術やソリューションを有効に活用し、SDGsの実現に貢献していきます。



新たな価値創造、社会課題の解決

「プリンティング」「メディカル」「イメージング」「インダストリアル」の各グループの事業活動を通して新たな価値創造、社会課題の解決を図っています [▶ P21-28](#)



地球環境の保護・保全

TCFDに即した開示など、ステークホルダーのニーズに応じた情報を開示しています [▶ P39-40](#)
 2050年CO₂排出量ネットゼロの達成に向けて、ライフサイクル全体で活動しています [▶ P41](#)
 資源消費の抑制と高度な資源循環の実現に取り組んでいます [▶ P42](#)
 製品含有化学物質管理など、サプライチェーン全体での管理を推進しています [▶ P43](#)



人と社会への配慮

人権方針の策定、人権リスクの特定など、人権尊重に取り組んでいます [▶ P45-48](#)
 サプライチェーン全体で、地球環境・人・社会に配慮した活動を推進しています [▶ P49-50](#)

